

# 昭和54年度 財政状況の公表

市の財政事情を毎年二回、市民のみなさんにお知らせしていますが、今回は昭和五十四年度決算を公表します。

## その他の収入

地方交付税は、十五億九千四百六十六万円の収入があり、予算より一億二千四百五十六万円の収入増となっています。

## 一般会計決算について

昭和五十四年度の最終予算額は、五十八億二千二百二十九万九千円でした。この予算に対する収入実績は五十九億二千九百四十四万、支出実績は五十六億三千九百八十六万円でありますが、降雪のため、年度内に完成しなかった事業の繰越財源四千四百四十五万を差し引いた二億四千四百七十三万円が黒字となりました。

## 経費の効率化と節減

貴重な財源を有効に運用し、健全財政を堅持しながら市民生活の環境整備、福祉の増進、産業の振興をはかりつつ、行財政

## 建設事業の充実

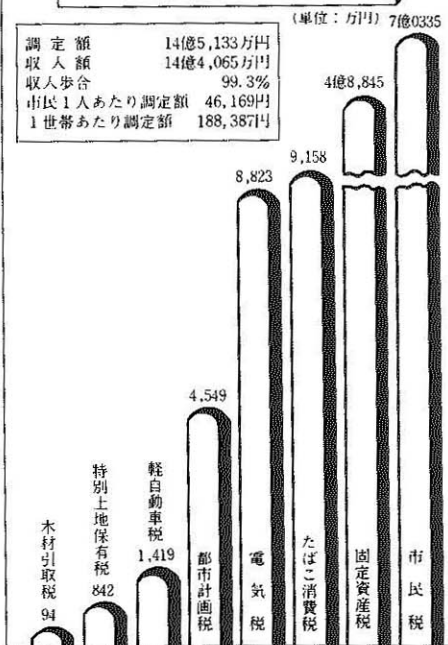
農村部の集落道路・排水路、市道の改良、都市計画道路、公園事業、小学校改築、公民館改築、幼稚園改築、その他公共施設

## 教育施設の整備 農村総合整備モデル事業の推進

設の整備拡充を進めた結果、事業費は十九億七千四百五十万円となりました。

二か年計画で着手しました。今後の経済の変動と市民のニーズに対処できるよう財政調整としました。

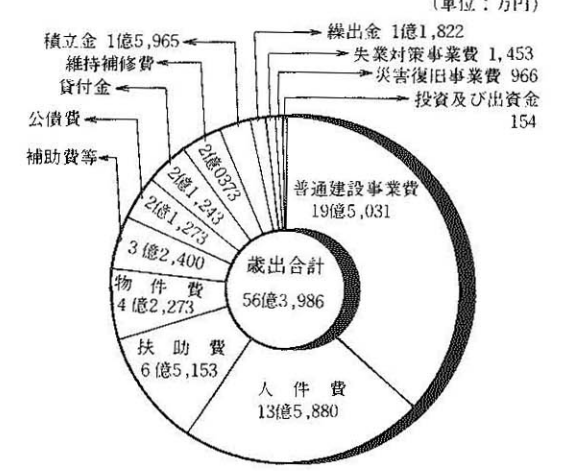
3表 市税の収入状況 (単位：万円) 7億0335



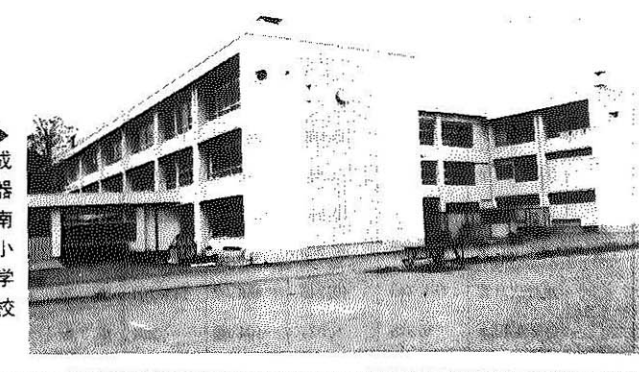
1表 54年度一般会計決算状況 (単位：万円)

歳入	決算額	構成比	歳出	決算額	構成比
市税	144,065	24.3	議会費	9,246	1.6
地方譲与金	7,106	1.2	総務費	80,641	14.3
自動車取得税	6,689	1.1	民生費	92,431	16.4
地方交付税	159,406	26.9	衛生費	19,143	3.4
交付税交付金	445	0.1	労働費	8,517	1.5
支分金	6,905	1.2	農林水産業費	54,785	9.7
川料	10,916	1.8	商工費	16,738	3.0
国庫支出金	87,890	14.8	土木費	125,605	22.3
県支出金	39,983	6.7	消防費	16,037	2.8
財産収入	5,830	1.0	教育費	116,463	20.6
寄附金	1,565	0.3	災害復旧費	966	0.2
繰入金	13,747	2.3	公債費	21,291	3.8
繰越金	23,430	4.0	諸支出金	2,123	0.4
諸収入	25,537	4.3			
市債	59,390	10.0			
計	592,904	100.0	計	563,986	100.0

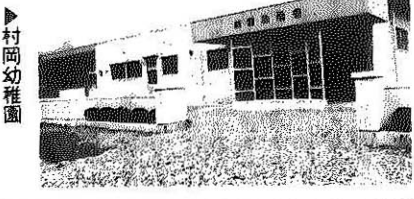
2表 一般会計性質別決算の状況 (単位：万円)



- ★道路橋りょう整備 (六億二千九百九十九万円)
- ★都市計画事業 (二億二千五百二十三万円)
- ★農林振興 (三億九千三百九十九万円)
- ★交通安全施設 (一千七百一十一万円)
- ★河川水路改良事業 (七千六百九十三万円)
- ★農林振興 (三億九千三百九十九万円)
- ★消防施設 (一千九百八十九万円)
- ★小・中学校整備 (三億九千七百八十一万円)
- ★成器南小学校 (二億一千九百九十九万円)
- ★村岡幼稚園 (二億一千九百九十九万円)

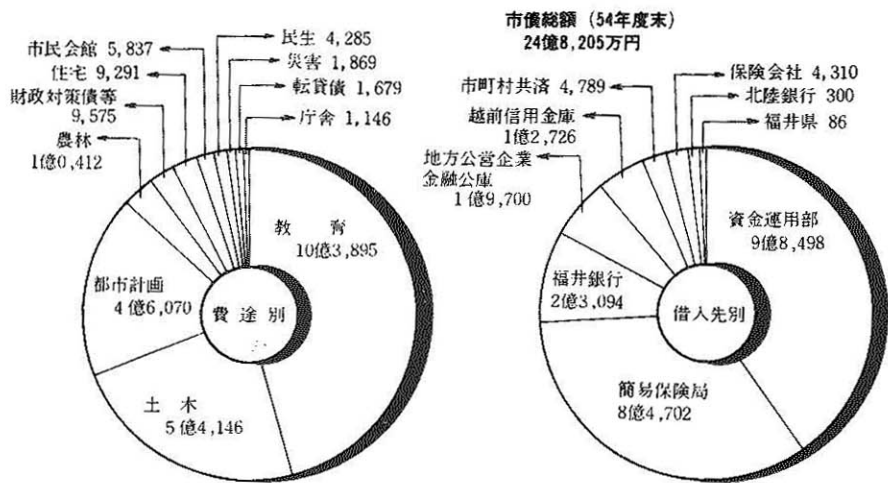


成器南小学校



村岡幼稚園

5表 公債の状況 (一般会計) (単位:万円)



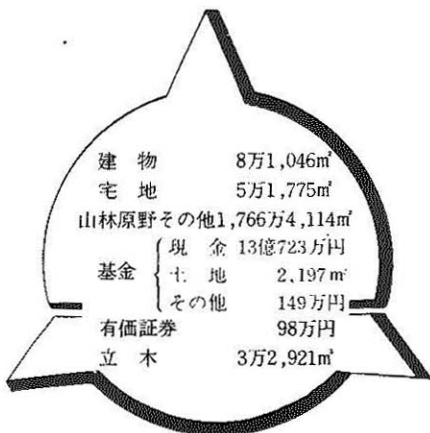
**特別会計**  
国民健康保険などの特別会計の収支決算の状況は、4表のとおりです。

**財産と公債**  
昭和五十四年度末の市債現在高は、一般会計二十四億八千二百五十五万円、特別会計七億六千四百六十二万円となっています。一般会計については目的別、借入先別の内訳は、5表のとおりです。

4表 特別会計の状況 (単位:万円)

区分	収入済額	支出済額	差引残額
市有林業	2,642	2,642	-
育英資金	2,460	1,202	1,258
簡易水道	1,643	1,617	26
国民健康保険	75,987	73,270	2,717
同慶谷直営診療所勘定	1,444	1,464	△ 20
土地区画整理	31,011	38,722	△ 7,711
農業共済事業	6,267	4,566	1,701
下水道事業	52,579	52,579	-

6表 市有財産の状況



特別会計公債の状況 (単位:万円)

区分	現債額	借入先
市有林造成事業	12,880	農林漁業金融公庫
簡易水道事業	10,283	資本金運用部 簡易水道事業
下水道事業	53,300	資本金運用部 下水道事業

拡張事業

第四次拡張変更事業については、五十四年十月に認可を得、勝山市上野野方面に水源を求め、自然流下により五十五年通水をめざして、次の施設を完成させました。

鴻谷取水施設、八萬取水施設、村岡町浄土寺地係に調整池V (百立方メートル)、雁ヶ原地、

昭和54年度 水道事業の公表

市勢の発展と市民生活の向上に伴う水需要に対処するため、五十四年度も第四次拡張変更事業および公共下水道事業に伴う配水管布設工事を中心として、施設の拡張、整備を積極的に進め、設備の近代化に努めました。

改良工事

公共下水道事業に伴う配水管布設工事が本格化し、事業費全体で二千七百一十九万九千円。これに対し、下水道事業特別会計からの補償金は二千二百四十万三千円、本会計負担金は四百六十一万六千円です。

配水管布設地区は本町地係千四百五十三メートル、元町地係千三百二十三メートル、栄町地係百九十五メートル、昭和町地係百四十八メートル、郡町地係七百八十七メートルで、水道管を新たに布設した地区は、滝波地係百二十八メートル、旭町地係二十五メートル、栄町地係百八十二メートル、昭和町地係四百五十七メートルで、配水管補助管の布設地区は立川町、元町、滝波町、栄町に三百三十七メートル施工し、施設の改良とともに、配水管未布設地域の解消に努めました。

給水状況

五十四年度は夏期における暑さが長く続いたこと、および冬期間における給水が良好であったことなどにより、総配水量、有収水量共に昨年に比べ順調な伸びを示しました。

五十四年度の年間総配水量は二百五十一万三千四百五十二立方メートルで、五十三年度より十萬五千四百三十二立方メートル(比四・三八%)増加。一日最大配水量は八千九百九十九立方メートルで、四九立方メートル減少しましたが、年間有収水量は百八十三万三千九百九十二立方メートルで、八万五千五百一十一立方メートル(比四・六六%)増加しました。

財政状況

五十四年度の営業活動については、給水戸数は五十三年度より九十四戸増加し、水道料金改訂を五十四年五月一日から実施したこともあり、一億五百六十四万八千六百六十九円と給水収益が千九百八十六万六千九百四十七円(比二・三・一六%)の増収となりました。

また、五十四年度から三か年計画で、計量器検定の有効期間を経過した量水器二千個について、五十四年度は六百個改造修繕して取り替えし、有収率の向上に努めました。

五十四年度の事業成績ですが、収益的収支については、事業収

仮設工事

公共下水道に伴う給水管仮設工事は、事業費全体で、三千一百二十九万八千四百四十円。これに対し、下水道事業会計よりの補償金は、二千六百九十八万九千七百三十二円、水道事業会計負担額は四百二十万九千九

区分	昭和54年度	昭和53年度	比較		区分	昭和54年度	昭和53年度	比較	
			比率	増減				比率	増減
収益的収入及び支出	千円	千円	%	千円	貸借対照表	千円	千円	%	千円
水道事業内容	149,374	102,422	145.84	46,952	資産合計	586,446	418,058	140.28	168,388
うち給水収益	105,648	85,781	123.16	19,867	うち 固定資産	545,226	379,523	143.66	165,703
水道事業費用	141,542	111,224	127.26	30,318	うち 流動資産	41,220	38,535	106.97	2,685
うち支払利息	16,123	15,138	106.51	985	負債資本合計	586,446	418,058	140.28	168,388
資本的収入及び支出					うち 固定負債	-	-		
資本的収入	153,943	35,037	439.37	118,906	うち 流動負債	28,010	15,080	185.74	12,930
うち 出資金	4,725	3,465	136.36	1,260	資本金	486,131	361,016	134.66	125,115
うち 企業債	125,000	12,400	1008.06	112,600	剰余金	72,305	41,962	172.31	30,343
資本的支出	190,667	46,269	412.08	144,398	給水戸数	4,890	4,796	101.96	94
うち 建設改良費	184,349	40,245	458.07	144,104	総配水量	2,513	2,408	104.36	105
うち 企業債償還金	6,318	6,024	104.88	294					

益一億四千九百三十七万四千二百五十七円、事業費用は一億四千五百五十四万八千四百四十円、差し引き七百八十三万二千三百七十七円の純利益が生じたので、前年度繰越欠損金六百六十九万九千三百八十八円を埋め、残った百四十四万四千三百三十九円は五十四年度未処分利益剰余金としました。

一方、資本的収支では収入一億五千三百九十四万三千六百六十三円、支出一億九千六百六十六万五千二百二十八円、差し引き三千六百七十二万三千四百三十五円不足を生じましたが、これは過年度損益勘定留保資金千九百二十一万三千九百九十九円および五十四年度

五十四年度においては、水道料金の改定および経費の削減をはかり、極力経営努力しました結果、前記の純利益を生じましたが、今後において、電気料金、原材料をはじめとする諸物価の値上げなどにより水道事業会計として、まことにきびしい財政事情となることを見込まれますので、今後さらに企業努力を必要とするものとご理解とご協力によりこの事態に対処したいと思っております。

昭和五十四年度決算の概要は次のとおりです。